



ここにいます
「がん電話情報センター」
あなたの知るを助けます

ancer

（全国一律の電話料金でご利用いただけます。
PHS、一部のIP電話からはご利用いただけません。）

おーここにじょうほう
0570-055224
受付時間：平日 12:00~17:00
（土日・祝祭日・年末年始・夏期休業を除く）

追加で応えたが、その4曲目は後ろを向いて（サントリーホールは後ろ側にも客席がある。同時に楽団のために）歌ったのだった。た

だった。

ホセ・カレラスはアンコールに5曲ご存じだろうか？
ドミンゴ、パバロッチェと共に世界三大テノールと称されて来た1人である。昨年の12月、骨髄移植推進財団のチャリティー、ホセ・カレラスのクリスマスコンサートに招待されて、味わい深い声と、哀愁たつよう風貌に酔いしれた。彼はオペラ歌手として全盛期を迎えようとしていた時に白血病を罹患し、骨髄移植で病気を克服したのだが、日本に骨髄バンク設立要求運動が盛り上がり始めた1988年頃、ちょうど軌跡の復活を遂げて音楽活動を再開し始めたのだった。



NPO法人血液情報広場・つばさ理事長、
がん電話情報センターCTIS相談主任、
日本骨髄バンク(骨髄移植推進財団)常任理事

橋本 明子

私の目にはいまだにカレラスさまのお姿が焼き付いていて、おかげで家人にイラっとしても、少々我慢ができていくこの頃である。

「伝説のおばさん」のオススメ 8

笑って、泣いて、感動して…
ライブの醍醐味を、
ぜひ会場で



Akiko Hashimoto

った一人の歌手が1,000人を超える聴衆をひとつにする、その力。これが「ライブ」だと実感する、一瞬。

去年は幸い、文楽、落語などを楽しむ機会にも恵まれて、ばたばたと走り続ける毎日に、文字通りの「ほっと一息」の時間をいただけてありがたかった。

このコラムが掲載されているジャーナル紙上にも、いつも楽しそうなコンサートやイベントの紹介があるが、「足を運んで観る、聴く」価値は大きい。会場全体で歌や演劇に集中して、笑って泣いて感動して…。同じ歌手が昨日と同じように歌っても、聴いている人達の組み合わせで微妙に会場の雰囲気も変わる、それが絶妙なのが「ライブ」、まさしく生きていくのだ。

いまその絹の衣装を、いまそこに居る人のために着て、いまそこに居る人に向けて手を差し伸べて熱唱しているあこがれのひと。なんともぜいたくだ。